

京に鉛に

Jo—Jack

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

そういうことがあつたかもしけないから

京に鉛に

目

次



# 京に鉛に

「よいしょつ： つと」

人が人を斬るそんな世の荒れ様を感じる光景を引き起こした人斬りに対して背後から歩み寄る影。

「相変わらずの戦闘スタイルだねえ」

そう話しかけるのはその手の界隈で知らない人はいないであろう程の美貌を持つた美女・アーサー・ペンシルゴン

その外見は現実においてスーパーカリスマモデルとして日本が世界に誇る花形モデルとまで称する人すらいるほどの有名人である天音永遠をシャングリラ・フロンティアのゲームシステムの中で自身の手によるパーツのフルスクラッチによつて再現したものである為、実際の天音永遠との差異こそあれどその外見はほぼそのものであると言つて良い。

まあそのアバターを使用しているのが極悪クラン「阿修羅会」のメンバーたる極悪人であるあたり名誉毀損などになるのではと考える者もいるだろうが。

「僕が言えた立場じゃないけど君も君でひどくない？」

「いやいや私の場合、ただアバターが、かなりとても現実の一個人に似てゐるつてだけだからねえ」

「当人が怒つてきたりとかしない限りは変えるつもりもないし、まあそもそも変えるつもりはないけど、今のところ手段があるわけでもないからね」

「それはそれとしてだけど最近は狩る量多くなつてないかい？」

「いやまあ…最近クラン内がなんだか腑抜けてきている感じがあるからね、きつかけがあつたらその内停滞して地位にあぐらかくような奴が増えてきそうな気がするんだよ」

「あと純粹にそろそろ運営側からPKの対策とか入れてきて噂もあるからね、今

の環境を楽しめるうちに楽しまないと」

「まつそういうわけもあつて鬱憤を晴らすついでに、心置きなく楽しめる間に楽しもうつてわけだよね」

「ああ…確かに、最近はなんだかそういう空気が漂つてるように私も感じる」

「まあ本当に組織として腐つたら僕よりも先に彼あたりが抜けたりしそうだけれどね」

「さてと…」

「無駄話もこの辺にして：だね」

「ちょうど狙つてた獲物が被つちゃつたとはいえ、このままだと微妙な感じになっちゃうからねえ」

「一本先取でどうかな？」

「先に一撃入れた方が勝ち、今回の獲物総取りつて事で」

「良いよ、相応のリスクあつてこそだよね、こういうのは」「アイツはそこら辺わかつてないからね」

「それじやあ合図はこの球が落ちたらで良いかな？」

「うん？ 良いよ」

「それじやあ投げるね」

(なんだか嫌な予感がするような)

ドムンッ

「んっ?!」

「思つたよりしつかりと引っかかるてくれたねーいやーごめんねえそこまでしつかりかかるとは」

「はかったな…ペンシルゴン…」

「今回は私の勝ちつて事で良いよね?」

「くう…ああうん…今回は僕の負けだよ」

「まあ今度いい狩場教えるからさ」

「ほんとその言葉忘れるなよ…」

まあ結局その言葉は流されたのだけれど

腐れども

その身投じし

修羅の道

違えるならば

立つも厭わズ